



環境の森センター・きづがわ建設に向けて

～“環境の森センター・きづがわ”は、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です～

木津川市では、老朽化が進む“打越台環境センター”に代わる新たなごみ焼却施設“環境の森センター・きづがわ”（鹿背山川向地内）の早期稼働に向けて、取り組みを進めています。

これまで、広報やホームページでお伝えしたとおり、近年のごみ焼却施設は、排ガス・臭いなど周辺環境に対する技術が進んでいます。

【排ガスの自主基準値について】

ごみ焼却施設の排ガス濃度については、周辺環境に影響の無いように国で基準が定められています。

市では、この法令基準を確実に遵守するとともに、周辺環境への影響をさらに低減するため、法令基準より厳しい自主基準値を設けました。

“環境の森センター・きづがわ”的実施設計に際しては、この自主基準値を超えることのないように進めました。

【排ガスの自主基準値を超えないためのシステム】

自主基準値を超えないためには、“ごみの均質化”、“燃焼の最適化”及び有害物質の除去の高効率化”を図ることがポイントとなります。そこで“環境の森センター・きづがわ”は、次のこと留意して、焼却設備の整備をします。

①ごみの均質化…安定した燃焼をするために、ごみピットに一旦、貯留して、徹底した攪拌することにより、ごみの均質化を図ります。

②燃焼の最適化…燃焼温度の管理に加えて、焼却炉内に適正に空気を送るため、レーザー式の酸素測定器を組み込んだ最新の自動燃焼制御装置を設置して燃焼の最適化を図ります。

③有害物質の除去の高効率化…これまでの稼働実績に基づき、有害物質を高効率で除去することができる排ガス処理システムを導入します。

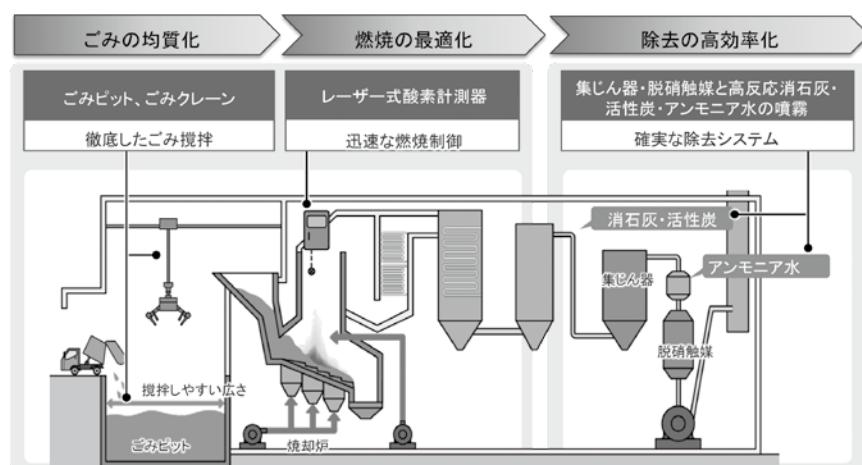
“環境の森センター・きづがわ”的機能・性能を確保するため、先進施設の事例も参考に、最新かつ信頼できる燃焼・排ガス対策の技術を取り入れることを基本方針として、焼却設備の実施設計に取り組みました。

今月号では、“環境の森センター・きづがわ”的焼却設備の主な特徴をお伝えします。

項目	単位	法令による基準値	自主基準値
ばいじん	g/m ³ N	0.15	0.01
硫黄酸化物	ppm	約4,600相当	30
塩化水素	ppm	430	50
窒素酸化物	ppm	250	50
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³ N	5	0.05
水銀	mg/m ³ N	定めなし	0.05

また、水銀・電池・金属類などを持ち込まないなど。市民の皆さんのごみ出しマナーがこれからも大切ですので、ご協力をよろしくお願いします。

【クリーンセンターの焼却設備のシステムイメージ図】



“環境の森センター・きづがわ”的早期稼働に向けて、地元の皆さんをはじめ、市民の皆さん、一人ひとりのご理解とご協力をよろしくお願いします。